

令和5年度カキ養殖概況

仲村尚人・山下泰司*

養殖規模 令和5年度漁期の漁業協同組合別マガキ養殖状況を表1に示した。全県の経営体数は、前年度から3経営体減少し、124経営体であった。筏台数は、前年度から56台減少し、1,893台であった。

養殖経過 本年度における牛窓沖海水温の年間偏差の推移を図1に示した。4~9月は平年値との差が-0.8~2.5℃、10~3月は-0.6~1.9℃で変動し、6月上旬から7月中旬までを除いて概ね平年値より高く推移した。

カキ養殖漁場39定点におけるクロロフィルa量の平均値は、抑制期(4~9月)は5.8μg/Lと平年値(5.4μg/L)並みであり、養成期(10~翌3月)も3.3μg/Lと平年値(3.4μg/L)並みであった。

本垂下は主に4月上旬~5月下旬、沖出しは9月中旬~10月下旬の間に行われた。生産は11月上旬から順次開始され、前年度と同様、例年より遅めの開始となった。成育状況は、東部地区では生産開始当初から身入りが良好で、日生町漁協の西寄りの漁場や邑久町漁協で例年より身が大きいのが特徴的であった。一方、西部地区では、生産開始から2月頃まで例年より身が小さかった。東西の成育の違いについては、餌料環境の違いや9月の高水温を考慮した西部地区の沖出しの遅れが一因と考えられた。なお、夏~秋季の水温が高かったものの、大量へい死は見られなかった。

生産結果 生産量は前年度比118%の3,149tとなった(表1)。また、生産金額は前年度比118%の約35億円であり、平均単価は前年度並みであった。一部では春の本垂下時にクロダイ等による食害と考えられる被害が発生し、生産量の減少した地区が見られた。例年より身が小さかった西部地区でも、漁期終盤には生産量が向上した。

その他 県および岡山県漁業協同組合連合会が実施した10~翌3月までのノロウイルス検査は、428検体中1検体が陽性で、陽性率は0.2%であった。

採苗は、日生町、伊里、邑久町、牛窓町漁協で7月下旬から開始され、8月上旬には概ね予定数が確保された。

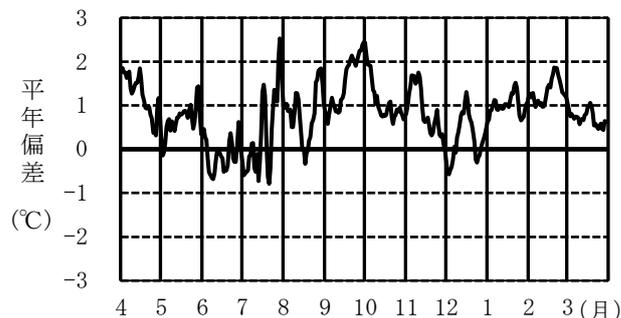


図1 令和5年度における牛窓沖海水温の年間偏差の推移(平年値は1991~2020年の平均)

表1 マガキ養殖状況(令和5年度漁期)

| 漁協名 | 経営体数 | 筏台数 | 沖出し時期 (月/日) | 生産時期 (月/日) | 生産量 | |
|-----|------|-------|----------------|---------------|--------|----------|
| | | | | | むき身(t) | 対前年度比(%) |
| 日生町 | 39 | 456 | 10/4 - 10/18 | 11/16 - 5/11 | 1,445 | 127 |
| 伊里 | 5 | 38 | 10/19 - 10/20 | 11/10 - 3/29 | 21 | 78 |
| 邑久町 | 55 | 1,207 | 9/18 - 10/15 | 11/5 - 5/20 | 1,435 | 114 |
| 牛窓町 | 4 | 79 | 10/6 | 11/16 - 4/29 | 65 | 49 |
| 寄島町 | 16 | 86 | 10/20 - 10/25 | 11/5 - 4/26 | 165 | 161 |
| 笠岡市 | 5 | 27 | 10/5 - 10/23 | 11/19 - 4/20 | 18 | 106 |
| 合計 | 124 | 1,893 | 9/18 - 10/25 | 11/5 - 5/20 | 3,149 | 118 |

* 現所属：岡山県環境文化部環境管理課